

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070600558
法人名	株式会社 エルダーサービス
事業所名	グループホーム 牧水の丘
所在地	福岡県北九州市八幡東区東鉄町5番20号
自己評価作成日	平成23年10月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年11月7日	評価結果確定日	平成23年12月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年12月事業所を開設して10年目を迎えます。現在、開設当初入居された方から入居半年の方まで9名様がひとつ屋根の下、心身の変化は日々あるものの、概ね安定した生活を送られています。今後も入居者の皆様が最後の拠り所として、安心して日々『笑顔』で生活していただくことが出来るように、職員一人ひとりが人生の大先輩である入居者様の尊厳を守り、支援のその手に心を添え、あたりまえの毎日があたりまえに、そして自分らしく楽しく穏やかに過ごすことが出来るように、お一人おひとりに合わせた気づきと思いやりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中の小高い場所にあるホームの周辺には自然の樹木が多く残っており、昭和初期に建てられた日本家屋を改築している「牧水の丘」は、趣き深い佇まいをみせている。歴史を重ねた柱の色合いや、当時のまま残る欄間や格子戸、四季折々の彩りをみせる広い庭園等、懐かしさと落ち着きのある、豊かな生活環境が大きな特徴である。1ユニットの特性を十分に活かし、生活習慣やライフスタイル、その日の希望や状況に合わせた日常の暮らしに寄り添い、入居者それぞれの方にとっての「自分らしさ」の実現に向けた支援を目指し、また、馴染みの職員による安定した体制の中で、様々な認知症の症状や日々の変化に向き合いながら、本人本位のアプローチが行われている。開設して10年目を迎える中、質の高いサービスを提供していくための職場環境作りや職員育成に、法人としてのスケールメリットも活かしながら積極的に取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての理念に基づき、地域密着型サービスの趣旨を踏まえた理念がつけられている。理念は皆がよく目につく場所(玄関及び2階)に掲示しており毎朝のミーティング及び定例会などで唱和し共有を図っている。理念の実践に向け全職員日々の業務の中で真摯に取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての理念は、ミーティング等にて唱和され、言葉一つ一つの意味するものを念頭に置き、行動できるよう、ミーティングや定例会にて確認する機会を持っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、行事等地域活動に参加したり、ご近所の方達と、散歩している時など気軽に挨拶を交わしている。又、牧水桜という名前の犬をホームで飼っているため、散歩時などに犬を介してご近所の皆様との交流がある。	自治会を通じた関わりや、近隣の同法人グループホームとの日常的な交流がある。また、愛犬(牧水桜)の存在が、近隣住民との何気ない会話のきっかけとなることも多い。八幡高校合唱部によるクリスマスコンサートがホームで開催され、その後ボランティアとしても来訪を受けている。活け花・折り紙等のボランティアが定期的に訪れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、見学者、電話での相談等に対して、認知症の人への理解や支援方法のついて地域の中で気軽に相談・アドバイス出来る場所として活動を続けており、今後も積極的に取り組んでいきたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一回開催されており、日々提供しているサービスの実際について、常に活動内容を公表している。又、会議での意見を持ち帰り情報の検討・共有を図り、サービスの向上に活かしている。	近隣の同法人グループホーム「牧水の丘」との合同開催となる。事業所だよりにて全家族に案内を行い、積極的な参加を呼び掛けている。ホームの運営や地域行事、地域の災害対策について、情報共有や意見交換を行い、サービス向上につなげるよう取り組んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	平成22年度八幡東区認知症対応グループホーム交流会が2回開催された。交流会参加することにより今まで以上の協力関係を市町村担当者と築くよう取り組んでいきたい。	地域包括支援センター主催による、八幡東区グループホーム交流会が開催されており、関係者との意見交換を行っている。行政担当者には、運営に関する相談や、不明な点等についてアドバイスを受けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部セミナー・研修等に参加しのおち伝研修、学習会を行い身体拘束についての意識を高め、全職員が身体拘束の行為の内容を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内外の研修の機会を確保し、職員の意識を高めている。また、認知症の様々な症状を理解し、向き合いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。排泄ケアや薬による抑制についても意識を持ちながら、細やかな配慮が行われている。日中の施錠は行われていない。	

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部セミナー・研修等に参加しのうち伝達研修、学習会を行い虐待防止について意識を高め、事業所内での虐待又は帰宅された時など、虐待について見逃すことがないように注意し、虐待防止に努めている。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護、成年後見制度について、セミナー・研修等に参加し、研修報告で伝達研修を行い職員間で学習し、必要な場合は活用できるようにしている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、これまでに活用に至った事例はないが、外部研修への参加や内部での伝達研修を行い、職員の知識や理解を深めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居又は解約の際は、入居契約や重要事項説明書をもとに、当ホームでのサービスについて十分な説明を行い、ご理解し納得していただいている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族・入居者の皆様には、日頃から要望・苦情など、自由に伝えてもらえるような信頼関係を築いていくことに努めている。又、ご家族へのアンケート調査や玄関に投書箱を設置する、運営推進会議において意見・要望など聞くなど、機会を広く設けている。	年1回、家族会の開催や家族アンケートを実施している。また、全家族に運営推進会議の案内を行う等、意見や要望について、表出の機会の確保や積極的な収集に努めている。各担当職員による手書きの通信を発行し、家族との情報共有に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、月に一度の定例会、個人的に個人面談などで、意見・提案を聞く機会を設け反映させている。	毎日のミーティング・申し送りや、事業所の定例会議において、職員意見の収集に努めている。出された意見や要望については、事業所内や法人全体での検討を行い、休憩時間やリフレッシュ休暇の取得等、業務に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員が得意分野を活かせるような役割分担をし、努力・実績・勤務状況などを把握している。又、各人が目標を持ち向上心を持って働き続けることができるように環境・条件整備に努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては年齢・性別で排除することはない。事業所で働く職員に対して管理者は定期的に意見・提案を聞き、精神的支えとなり、日々の業務において個々の能力が最大限に發揮出来るように配慮している。	基本として常勤採用となるが、個人の状況に配慮しながら勤務形態を決めている。今年度より、リフレッシュ休暇の取得も実現しており、働きやすい職場環境作りへの取り組みは、安定している職員体制へとつながっている。資格取得に向けたサポートもを行い、スキルアップを支援している。	

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権尊重に配慮したケアが行われるように、日々指導・教育に取り組んでいる。	理念にも謳われている、その人らしさへの支援について、ミーティング等にて周知を図っている。また、法人内の合同研修や、内部での伝達研修、勉強会等において、人権教育、啓発に努めている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部・外部研修を行っている。又、年間の研修については各人平等に機会が与えられレベルアップ出来るように配慮している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと相互訪問し交流を図り、情報交換を行っている。又、各職種間でのネットワークづくりや勉強会に積極的に参加し質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談に伺い、ご本人との面談を重ねる中で信頼関係を築き、困っていること、不安なこと、求めていることについて把握し、できる限り希望される生活をおくることが出来るように、入居前に環境を整えるように努力している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い、希望されること・困っていること・不安に思っていることについて詳しく聞き受け止め、ご家族ご本人が不安なく安心して生活できることである、との信頼関係を築くことが出来るように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人との話し合いの中で、最も必要としている支援・サービスを考慮し、状況に応じ対応するように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話や行動の中で、「気づきと思いやり」を大切に、共に過ごす日常生活の中、お互いを思いやり支えあう関係を築いている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や来訪時に日常生活状況をお伝えしたり、行事参加のお願い、病院受診の付添、外出など職員と一緒に頂くことにより、お互いの関係に理解を深めていくことが出来ており、一緒にご本人を支えていく関係が築かれている。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう継続できるように、ご家族と話し合いながら支援に努めている。</p>	<p>日常の会話等から個別の馴染みの場所を把握し、ドライブの途中で自宅に立ち寄ったり、ゆかりのある神社を訪ねる等の支援を行っている。</p>	
23		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日常生活の中や、行事・レクリエーション等で自然な形で入居者同士が会話を楽しみ、係り合い、助け合うことが出来るよう配慮を欠かさず、ご利用者同士の関係の支援に職員全員で取り組んでいる。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去された御利用者様の近況をお尋ねしたり、ご家族からの相談等に関してはニーズに応じて対応している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話の中で一人おひとりの思いや希望を聞き取り、意向の把握に努めている。又、把握したものをアセスメントし、ケアやサービスの提供に取り入れ「自分らしく」生活できるように支援している。</p>	<p>生活暦やライフスタイルに関する情報収集を行い、思いや意向の把握につなげている。また、日常の中での言葉や表情の変化を、個人記録やミーティングにて共有している。職員体制が安定しており、馴染みの関係性の中で、個別性を尊重した支援が行われている。</p>	
26		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご家族からの情報提供(生活歴、生活環境等)してもらったり、ご本人との会話の中から把握に努めている。又、以前に介護サービスを利用されていた場合は関係機関からの情報提供もお願いしている。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>常時、様子観察を行い、一日の過ごし方、心身の状態、有する能力の把握に努め、全ての状況は記録として残し、職員間で周知している。</p>		
28	(13)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人・ご家族との話し合いの中での課題・ケアの在り方などについて、関係者とカンファレンスを行い、介護支援専門員が介護計画を作成している。</p>	<p>担当者会議には、本人、家族の他にも、かかりつけ医や訪問看護師が出席することもあり、それぞれの意見を検討しながら介護計画を作成している。毎月、モニタリングを実施し、現状の確認や見直しにつなげている。</p>	
29		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録は個別に記録しており、日々の様子、心身の状況、ケアの実践・結果などを詳細に記録し、職員間で情報共有出来ている。又、実践や介護計画の見直し、次回の計画書作成などに活かしている。</p>		

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所との連携を図り、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいくことが出来るように、必要な情報収集・提供に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二か月に一度の運営推進会議、ボランティアの先生による生花教室の開催、地域の美容師さんによる2か月に一回の訪問美容、消防署による防災指導・避難訓練、緊急時は消防署への救急車の要請、必要時は警察への応援要請、地域催事に参加する等行っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週に一度、かかりつけ医の往診がある。又、健康状態に問題が生じた時には受診し、適切な処置を受けている。	入居時に、かかりつけ医についての意向確認を行い、同意を得ている。また、希望する医療機関への受診についても、基本的には職員が同行している。看護計画が作成され、3ヶ月ごとに評価が行われており、医療連携体制が機能している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護を受け、ご入居者の健康管理・医療相談等の支援をしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行っている。又、病院のソーシャルワーカーとの連携を図りながら病院での治療方針・退院までの計画を話し合うカンファレンスに参加している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアの方針を作成しており、重度化した場合や終末期の在り方についてはご家族・かかりつけ医との話し合いを重ね、事業所で出来ることを十分にご説明しながら方針の共有し、地域の関係者とともにチームで支援出来ている。	入居時に、重度化した場合における対応指針をもとに説明を行い、同意を得ている。状態に変化があった場合には、家族や医師との話し合いを重ねながら、方針を共有している。管理者や職員の、終末期支援への意識や意欲の高さが伝わってくる。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当や緊急時の対応について訓練を行っている。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。運営推進会議の時も常に協力をお願いし、自治会、近隣の方へ防災時の協力もお願いしている。	年2回、昼夜を想定した防災訓練を消防署の指導のもと実施している。運営推進会議の中で、町内会長や近隣グループホームとの連携体制を確認している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、対応等、お一人おひとりの尊厳を守り誇りやプライバシーに配慮した対応をおこなっている。	尊厳を大切にされた対応を、支援の原点として重要視している。排泄ケアや入浴時には特に留意し、プライドや羞恥心への細やかな配慮に努めている。飲み物や衣類については選択できるよう支援し、自己表現できる場面を大切に捉えている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定・自己選択が行えるように声かけし、言葉による意思の表出を促すことが出来るようにお一人おひとりに合わせ支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿いながらも、お一人おひとりのペースに合わせ、又、希望の表出を促しながら、毎日の生活を健康で穏やかに、楽しく笑顔で生活して頂けるように支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問美容師が来訪し、カットを行っている。又、馴染みの美容院にご家族とともに定期的に行かれる方もいらっしゃいます。日々の生活の中でもお化粧品や身だしなみ等に気をつけています。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの心身の状態に合わせた献立や調理方法に取り組み、時には外食、ドライブでのおやつなどを楽しんで頂けるように支援している。出来る方には準備・後片付け等のお手伝いをお願いし、会話を楽しみながら行えるように支援している。	調理担当職員が配置されており、法人として作成されている栄養計算された献立をもとに、個別の嗜好や状態にあわせて細やかな配慮が行われている。個人のペースにあわせてゆっくりとした食事風景とともに、食後の余韻も楽しんでいる。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の状態に合わせた食事内容や量、水分量を摂取していただいている。食事内容・量、水分摂取量は記録しており体調の変化に合わせた支援を行っている。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。お一人おひとりに合わせた支援を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録することで、お一人おひとりの排泄リズムを把握し、適切な時間に声かけトイレ誘導することにより気持ちよく排泄出来るように職員全員で自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表には詳細な記録が行われており、個別の排泄パターンや間隔を把握し、さりげない声かけや誘導が行われている。夜間についても、個別のニーズを検討し対応している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分補給や食事内容・量に留意し(記録している)、日常生活の中で適度な運動を行い、便秘の予防に全職員で取り組んでいる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人に希望を聞き、入浴したい日・時間に合わせ支援している。	一日おきの基本的な入浴スケジュールはあるが、毎日入浴準備を行っており、その日の希望や状況に柔軟な対応を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調により就寝時間の変化、又、日中の休息など、お一人おひとりの心身の状態に合わせて支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は、お一人おひとりが使用している薬について理解しており、服薬時も個々に対応し、安全に服薬できるように支援している。また、服薬による症状の変化の確認に努め、変化が見られる時は、かかりつけ医に連絡し指示をうけ対応している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの能力に合わせ、生活の中での役割(掃除・洗濯物たたみ・食器拭き)の支援をしている。楽しみ気晴らしなどは、季節の行事・レクリエーション・外出ドライブ・散歩、など希望に合わせて支援している。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>お一人おひとりの体調、希望に合わせて散歩・ドライブなど戸外に出かけられるよう支援に努めている。旅行など、ご家族と一緒にいられる方もいらっしゃるの、今後とも継続できるように支援していく。</p>	<p>敷地内の広い庭園での日光浴や、緑が多く残る周辺の散策に出かけている。また、近隣には同法人のグループホームもあり、散歩の途中で立ち寄る等、交流の機会がある。馴染みの場所や思い出の場所へ立ち寄る等の支援も行われている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お一人おひとりの希望・力に応じた対応をしている。時々、ご家族と外出されお買い物を楽しんでいる方もいらっしゃるの、今後とも継続できるように支援していく。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人が希望すれば電話、手紙のやり取りなど行っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間は家庭的で季節感を採り入れ、居心地よく過ごして頂くための工夫をしている。</p>	<p>昭和初期に建てられた日本家屋を改修しており、歴史を重ねた趣き深い空間は、「牧水の丘」の大きな特徴でもある。柱の濃い色合いや、当時のまま残る欄間や格子戸等、昔懐かしい、豊かな生活空間が広がっている。中庭に面した廊下にはソファが設置され、広い庭園の彩りの変化を眺めることができる。「牧水桜」と名付けられた愛犬の存在が、暮らしの活性化に一役かっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>中庭に面した場所にソファ・イスを配置し、集団の中でも気楽に1人で過ごせたり、気の合う仲間と談笑し過ごすことができるように配慮している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅から持ち込んだ家具、仏壇等が各自の居室に置かれている。これら馴染みある遣い慣れた物、好みのものに囲まれ居心地よく過ごせるように、ご家族、ご本人と相談しながら工夫している。</p>	<p>民家を改修していることから、各居室の配置や間取りはそれぞれに異なる。テーブルや椅子、筆筒等が持ち込まれ、生活感のある、安心できる環境作りへの配慮が行われている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は安全で自立した生活を送ることが出来るように物理的環境を整えている。(段差のない廊下、照明器具の設置、要所への手すりの設置、イスの滑り止め、バスリフト)各居室にはカレンダーや時計があり、日時の見当識に配慮している。</p>		